山都町立潤徳小学校　学校だより

狭霧（さぎり）の朝

令和４年５月１１日（水）　第９号

校　長　池部　聖吾智（みわとも）

潤徳小HP
QRｺｰﾄﾞ

脳科学の観点から学力を検証

脳科学の研究で有名な川島隆太教授は、「親子のコミュニケーション」が脳を活性化させるという研究結果を発表しています。川島氏と安達忠夫氏の共著「脳と音読」（講談社現代新書）に、こういう一節がありました。

家庭内の会話も絵本の読み聞かせも、最初はことばの意味などわからないはずですが、くりかえし聞き、楽しんでいるうちに、自然に意味がわかってくる。

「百ます計算」の実践で有名な陰山英男氏は、自身の著書「陰山英男の校長日記」（小学館）において、自身が土堂小学校の校長に赴任した年に「百ます計算」のタイムが家で学校以上の記録を出す子や、音読を宿題に出すと、その文章を暗記する子が続出したと述べています。さらに、タイムを計る、音読を聞くといった親子のコミュニケーションが、さらに脳を活性化させていた、と分析し、川島教授の話と重ねています。

家庭の協力が学力に大きな効果をもたらすことが明らかになりました。少しでもお子さんにおつきあいいただければ幸いです！

潤徳小の伝統（登校後の職員室前あいさつ）を大切にしつつ、「プラス1」を!

引継ぎ時に前任の　　校長先生から聞いていましたが、実際に体感すると朝から気持ちの良いものです。子どもたちの表情もわかり、声から本人の調子もわかります。あいさつといえば、いつも立ち止まって頭を深く下げてあいさつする　くんの姿に感動しています。職員室前だけでなく、いつでも、どこでも変わらないレベルであいさつできることはスバラシイことです。

また、本通信第4号でも述べましたが、中学校における生徒指導の習慣で、毎日児童靴箱の様子を観察しています。まだ100%には達しませんが、多くの児童の靴が整然と並ぶようになりました。少し気になるのが、かかとの踏みつけが一部に見られることです。足のケガで靴が履けない場合は、スリッパにしてもいいのです。もし、靴が小さくなったら靴を替えましょう。踏みつけられた靴はきっと泣いています。大切に使いたいものです。

潤徳抄

▼9日の朝、3月まで本校校長として3年間勤務された　先生急逝の知らせが入った。一瞬、自身の耳を疑った。8日夜に倒れられ、意識が戻らないまま逝去されたという▼私自身、直接一緒に仕事をしたことはないのだが、本校への赴任が決まって挨拶および引継ぎで来校したときに、長時間にわたって私のために時間を割いていただいた▼山都町内の小中学校校長に訃報を伝えたときには「面倒見の良い先生だったのに」とショックを隠しきれない様子だった▼9日の夜に仮通夜が行われるということで先生のご自宅に行ってきた。先生の最後の姿をしっかりと確認し、お参りをした後に、先生のご家族の方と少しお話しした▼倒れられた前日は娘さんの体育大会の応援に行かれており、元気だったそうである。何と私は、私用でたまたまその日に自宅近くまで来ていたのだ。先生のご冥福をお祈りしたい▼子どもたちには9日午後に先生の訃報を知らせ、全校で黙祷を捧げました。